

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成21年1月17日

事業所番号	2779500640	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	(株)ディー・エッチ・アイ	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
事業所名	グループホーム 白馬	評価調査日	平成 21 年 1 月 15 日
所在地	大阪府阪南市箱の浦452-3 電話 072-481-3666	評価確定日	平成 21 年 1 月 18 日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	18 人
職員数	15 常勤 11 人	非常勤 4 人	常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物の構造	鉄骨ALC造り 2階建ての(1階～2階部分)
-------	---------------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	3.3万円	その他の経費 (月額)	2.4万円	
敷金	無 ()			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 50万円	償却入居時 一括		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1.100円			

(4) 利用者の概要 (1月5日現在)

利用者人数	16名	男性	0名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢 平均	86才	最低	67才	最高	98才

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	第二なぎさクリニック 野上病院 高松歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

当ホームは、経営主体の法人が経営するクリニック及び薬局が同じ敷地内にあり、医療連携が仲間同士の関係上、適切に実施されており、利用者及び、ご家族には何よりの安心となっている。又、職員の定着性も良く、退職者は年1～2名程度に留まっている。職員は原則として身分は全員社員となっており、チーム力で各利用者の症状を把握して、安定した介護を続けている

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	ホームの理念は年度毎の具体的な実施項目も掲げ、職員の日常の基準として指導されている。地域組織の役員さん方との交流については、自治会にホームが法人として加入し、行事への参加等が進められている、職員のレベルアップについては、6名が介護福祉士の受験への努力をしており、支援している
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者と計画作成者が原案を作成し、それを元に適宜に、職員との合議を重ねて作成された。会議では、利用者それぞれの記録を基に、より良い介護の進め方の検討を重ねている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4、5、6)
	運営推進会議では地域の委員さん方と、ホーム職員との熱心な質疑応答が各回行われている。ヒヤリハットの報告は、職員が利用者の怪我には至らない、ほんの些細な事象を10数件発見、報告をして、日常介護への参考事例となっており、お褒めを頂いている
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
	ご家族アンケートでも、殆どのご家族がホームの運営に満足して頂いている。市役所からの訪問調査員の利用者への聞き取り調査を2ヶ月毎に受け入れており、その際の聞き取り内容も報告して頂いて、介護に活かしている
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地元の自治会にホームも加入し、地域の行事にも希望者が参加させてもらっている。ホーム敷地内のクリニックと薬局には、多勢の地域の方々が受診、利用等に見えられるが、その際、利用者の散歩、日向ボッコの際に気軽な挨拶を交わして頂いている

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは利用者に、今までのあたりまえの生活を送って頂けることを理念として掲げている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念を玄関と事務室に掲げ、利用者、ご家族にもご理解頂き、職員には機会ごとに指導を行っている		
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	ホームは地元自治会に法人として加入し、地区の諸行事に参加させて頂いている。同じ敷地内にクリニックと薬局があり、来訪の地域の方々との交流が自然に行われている		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者と計画作成者は評価の意義を理解し、介護レベルの向上に繋げるよう努力している		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議では毎回ホームの運営状況の報告を基に、熱心な質疑応答が行われ、介護レベルの向上の活かされている		
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阪南市のご担当の方との交流の機会も増えて来ており、ともに介護サービス向上に努力している		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族へはホーム便りや、来訪時の担当職員による最近の報告が行われている		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見や来訪時には担当職員、管理者がご意見、ご苦情があれば承って、運営の改善を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員を全員、社員として待遇し、安定勤務に配慮している。職員の年間退職者は1～2名程度しかなく、利用者への退職による影響を最小限になるよう配慮している		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得の受験については、昨年に引続き、今年度も6名の職員が努力している。阪南市主催の職員研修会には参加させている	○	法人内の職員による指導も含めて、内部研修の計画検討を進めて欲しい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者が地域の交流の窓口となって、各種活動に参加している	○	グループホームの職員同士の相互訪問、懇談の場が、1回でも増えるよう努めて欲しい

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のクリニックは、利用者の受け入れが主となり、入所についてはスムーズに進められている		
--	-------	--	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの毎日の生活の中で、利用者の出来る能力の発見から、出来る範囲内の活動に参加していただけるよう配慮している		
--	-------	---	--	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前からご家族からの聞き取り、日常での見取りした情報の把握に努めている	○	利用者一人ひとりの日常生活のなかで各職員が把握した事象を、職員のチーム力でより良い記録となるよう研究して欲しい
--	-------	---	--------------------------------------	---	---

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者毎に担当職員が、他の職員からの情報を取り纏めるようにしている。ご家族からの要望、ご意見等は管理者、計画作成者に伝えられるようにしている		
--	-------	--	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な計画見直しの実施と、症状の変化に応じた計画の見直しを関係者間で行っている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の状況に応じた支援を適宜に行っている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	原則的には、納得された法人のクリニックの各医師の往診となっている。症状によっては、専門の医師への受診を支援している	○	利用者の医療費の負担が出来るだけ少なく済むように配慮してあげて欲しい
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則的には入所時に重度化された場合は、法人のクリニックへの搬送を了承して頂いている。経口摂取が困難になった場合は、主治医と話し合いを行っている。終末期の利用は想定していない		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個々の利用者の尊厳については、職員はよく対応している。又、個人記録の保管も配慮されている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自由に時間を過ごして頂けるよう配慮している	○	利用者同志の話し合いが少ないように見受けられたので、検討して欲しい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、職員が交代で担当して、リクエストにも応じられるようにして頂いている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
--	----	----	---	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		